

---

# 優布(エフ)

やいたもん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

エラ  
偃布

### 【Nコード】

N7232W

### 【作者名】

やいたもん

### 【あらすじ】

私の葛藤やジレンマ、哲学などの思いをそのまま描いた作品です。

## 自分の幸せの基準くらい自分で決める

誰かと比べていたってしょうがない  
そいつに勝ったところで

そいつより幸せな奴はさらにいる

他人が小さいと思う事でもいいじゃないか  
他人に惨めだと思われるも気にするな

他人より上で優越感に浸って…

他人より下で劣等感にさいなまれて…

そんな他人に依存する

そんな人生こそ惨めではないか

自分の生き方を自分で決める奴がかっこいいんだ  
自分の意志で生きてる奴ほど

誰からも愛されて輝いて見える

名誉の高さなんて関係ない

持ってるお金の量も関係ない

自分の名誉は自分で与える

金を集める事ではなく

それで自分で何をしたいかを考える

自分の幸せの基準は

自分で勝手に決めて

自分から勝手に幸せになれ

そういう人間こそ強いんだ

私はそういう人間になりたい



## 家族愛も愛国心もみな同じ

人は、一人では生きられない  
だから家族がいる

家族だけでも生きられない  
だから町がある

町だけでも生きられない  
だから国がある

国だけでも生きられない  
だから地球がある

家族愛も郷土愛も愛国心も自然を愛する心も、  
全ては同じ愛

愛とは感謝の究極の形、究極の心  
本当の愛を知っている人は全てを愛せる

本当の愛を知らない人は、どれも愛せない  
本当の愛を知らない人は、どれかしか愛せない  
それは本当の愛ではない

愛を差別し、どれかを否定する愛は、  
愛ではなく単なる覇権に過ぎない  
全てを愛せないのは、

素直になれない意固地なだけ

いてくれてありがとう…

全てに対してそう言える

私は、そんな人間になりたい

そんな人間になって、

そんな人間のまま最期を迎えたい

私は、本当の愛が欲しい

## 戦争とは正義と正義の戦いである

戦争とは正義と正義の戦いである

決して正義と悪の戦いや悪と悪の戦いなどではない

正義はひとつではない

人の数だけ正義が存在するのだ

人が心から信ずるもの

それが正義であり、

正義とは、決して万物を統括するような

絶対真理といったような崇高なものではない

だからこそ、正義と正義の戦いと言えるのだ

そして、心から信じるものがあるからこそ、

人は命がけで戦えるのである

信じるものがないのに戦えるはずがない

あなたは、信じるものがないのに

命がけで戦えるのか

戦争をただの人殺しと言う人もいるが、

人に殺されるかも知れないリスクがある戦争と

ただの人殺しを同じにするのは愚論である

人に限らず、全ての命は、

生きるために必死に戦うのだ

殺すために戦うわけではない

戦争に限らず、争いを否定しなければ秩序は守れない

だからこそその否定であって、

戦う事を否定することは、

人間だけでなく、生きる事と、  
生きるもの全てに対する冒涇である

戦争に、どちらが正義でどちらが悪かということはない  
どちらも正義なのだ  
そこから理解しなければ、不毛な戦いは避けられない

戦争とは正義と正義の戦いである  
そこから理解して、

初めて人は新しい秩序と倫理を手に入れられるのである

一人の時に二人が恋しく 二人の時に一人が恋しく

人は、一人になると二人が恋しくなる

人のぬくもりが欲しくて

一人になると誰かを求めたくなる

人は、二人になると一人が恋しくなる

誰にも気遣わないで自由になりたくて

二人になると孤独が欲しくなる

人はわがままだ

何かを得れば何かを失う

それは避けられない定めで

一途である事を美徳にしてるくせに

人はわがままだ

それで満たされないと不幸という

人はわがままだ

けれども人は満たされると歩みを止めてしまう

だから、ほどよく幸不幸が巡るよう

神様は人間を作ったのかも知れない

それにしても…

人である自分が言うのもなんだけど

人はわがままだ



生きてる人も死人も同じ人間

生きてる人も死人も同じ人間

生きてるか死んでるかの差だけだ

だから考える事は同じ

霊は人の多いところに集まる

楽しいところに集まる

人間ならば当たり前だ

さみしいところになんかいたくない

時々、廃墟とかさみしい山奥とか

そういうところにもいたりする

そういう人間だっている

お化けが怖い？ 霊が怖い？

失礼な奴らだ

人間に良い奴もいれば悪い奴もいるように

同じ人間なのに、霊だからと差別をしたら、

そりゃ、たたられても仕方ない

人間関係だつて

人を怒らせれば当然の反発を買う

霊なんて難しく考える必要はない

生きている人も死人も同じ人間

そう考えれば全てが解決する

ただそれだけの話だ

## 最高の愛は「忘れない事」

人間にとって一番つらいのは「忘れられる事」  
なぜ孤独がつらいのか

自分が誰からも忘れられているような気がするからだ

自分の事を気にしていて欲しい  
特に自分が好きな家族や友人、恋人には気にして欲しい  
誰にも気にされないと

自分の存在意義が見えなくなってしまう  
この世に自分はいなくてもいいのだと  
そんな事を考えてしまうからつらい

生きていたいけど、その思いだけじゃ生きていけない  
人は一人では生きていけないから  
本能は、常に誰かを求めている  
誰か、自分を求めて欲しいと…

どんな大きな財産を築いても、  
どんなに高い名誉を持っても、  
どんなに強い権力を持っても、  
人は簡単に忘れてしまう

「ここには昔、有名な人物が住んでいて、  
偉くなって大きな財産を築いた」

そんなの知らない  
そんなの興味ない  
世の中そんなものだ

「ここには昔、有名な男女がいて、  
強く愛し合い、悲劇に散って行った」

そんなの知らない

そんなの興味ない

どんなに幸せな恋愛をしても、

どんなに死ぬほどの愛を貫いても、

他人の恋愛に人は興味がない

そして、それを簡単に忘れていく

最高の愛とは「忘れない事」なのだ

忘れられたら人は生きていけなくなる

愛は生きるためのエネルギー

人に覚えていてもらう事

それが最高の愛

忘れないで欲しい

覚えていて欲しい

気にかけていて欲しい

一人だけでもそんな人がいれば

自分は生きていける

そんな愛に恵まれない



## 普通に生きたら間抜け 馬鹿が最高

一生しかない人生なのに普通に生きてどうする？  
普通に生きるのはもったいない

馬鹿と言われてこそ楽しい人生  
みんなと同じ人生でないから馬鹿と言われるのだ  
それは最高じゃないか

他の奴と同じに生きたら意味がない  
自分に素直になってやりたいように生きる

失敗して大恥かいたっていいじゃないか  
どうせ死んだら全部リセットだ

だけど…

それはみんな同じと言う事は忘れたらいけない  
自分だけがそうじゃないのだ  
みんなも同じ 自分勝手に生きる事と  
自分に素直に生きる事は違う

馬鹿に生きる事は結構  
けれども、それで周りを巻き込むな  
他人が馬鹿に生きる事を邪魔するな  
他人を邪魔すれば、自分も邪魔される事を忘れるな

馬鹿になって生きる事は自己中心的であってはならない

普通に生きたら、それは間抜け  
馬鹿と言われて  
一度しかない人生を楽しめ

プロ選手に言ってやれ 「負ける事なら俺にも出来る」

プロ選手に言ってやれ

「負ける事なら俺にも出来る」と

素人がやれば100点差で負ける？

実力があるから1点の僅差で負けた？

1点差だろうが1万点差だろうが

負けは負けだ

負ける事なら俺にも出来る

負けてもプロになれるなら

俺もプロ選手になれる

プロの年俵を俺にもくれ

プロ選手だろうと負けたら素人と同じ

勝たなければプロじゃない

負けを許容するならプロなんてやめちまえ！

それか俺をプロにしろ

プロ選手に言ってやれ

「負ける事なら俺にも出来る」と

プロ選手よ、強くあれ！！

## 死ぬなら心から笑って死ね

私は自殺を否定しない

ただ、自分の命だから

自分が自由にしているとは言わない

そんなのは、自分が1人だけで生きてると

勘違いしているから言えるのであって、

1人だけじゃ生きられないと解っていたら、

そんな屁理屈は言えないはずだ

生きている間、ずっと不幸でも、

死ぬ瞬間、心の底から笑えているなら

その人の人生は幸せな人生だ

生きている間、ずっと幸せでも、

死ぬ瞬間、悲しい気持ちだったら、

その人の人生は不幸な人生だ

人間の人生の価値は死ぬ瞬間に決まる

笑えて死ねたら幸せだ

長さなんて関係ない

豊かさなんて関係ない

地位や名誉、

偉業を残したかなんて関係ない

全ては、自分の命の終わりで

笑えたか笑えなかったかで決まる

だから、自殺をしてもいい

本当に恨みや後悔をかけらも残さず

心の底から笑って死ねると言うなら、  
幸せの絶頂で自殺してもいいだろう

ただ人間は、幸せな時に死にたいとは思わない  
思わないから、

心の底から笑って自殺するなんて不可能だ  
死にたいなんて、

幸せだったら絶対に思わない  
人間とはそういうものだ

私は笑って死にたい

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7232w/>

---

偃布(エフ)

2011年11月15日13時33分発行